



聖書を読む会 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内
Tel/fax: 03-5577-4687 E-mail: sykoffice21@gmail.com
Web: http://syknet.jimdo.com 郵便振替: 00180-9-81537

No. 118

2018年12月1日発行



齋藤宗次郎と「二荊」～地域に生きる信仰

飯能キリスト聖園教会牧師
若井和生



以前、岩手の教会で牧師をしていた頃に愛読していた一冊の本があります。内村鑑三の弟子・花巻さいとうそうじろうの齋藤宗次郎著の『二荊にけいじじよでん自叙伝』です。その中に、次のような文章を発見して喜びました。

西郊に新築せる農学校を訪うて宮澤賢治先生に会った。…氏は予を歓待して呉れた。椅子を取出して予をして之に倚らしめた。更に蓄音機によってピアノの数曲を予に供したのであった。予は例の如くめいもくきょうしゅう冥目拱手して氏と共にベートーベンの第四シンフォニーに心耳を傾倒して恍惚たるものがあつた。

宗次郎が宮澤賢治と親しかったことが伝わってくる文章です。宗次郎は花巻農学校で教鞭をとる宮澤賢治を時おり訪ねており、賢治も自らが主催する演劇会に宗次郎を誘ったりしました。そんな二人の間のやりとりが、この本を読むと手に取るようにわかるのです。



資料提供 林風舎

『銀河鉄道の夜』『グスコブドリの伝記』などの作品を読めば、賢治にキリスト教の影響が及んでいることが明らかです。賢治がキリスト教を一番身近に感じたのは、この齋藤宗次郎を通してでした。宗次郎がキリストの魂を全身で表しているような人間だったからです。

宗次郎が自らの著作の表題に使った「荊」という字は、キリストのかぶられたいばらの冠を指しています。「二荊」とは、いばらの冠をつけて十字架にかけられたキリストに続いて自らも「荊」をかぶり、苦難を受けるという意味で、宗次郎はこのことばをキリスト者になった若い時から使っていたそうです。

宗次郎の人生はまさに「二荊」そのものでした。キリスト者になると親からは勘当され、教師としての職を追われ、町を歩けば石をぶつけられ、子どもたちからは「ヤソ、ハゲアタマ」と馬鹿にされました。迫害は宗次郎の家族にまでも及び、長女の愛子は男子生徒に腹を蹴られ腹膜炎を起こし、わずか九歳という若さで亡くなったのです。これが宗次郎にとって生涯で最大の悲しみでした。

その悲しい経験を宗次郎はどのように受けとめたのか。以下は1909年(明治42)4月15日、愛子人生の最後の瞬間について宗次郎が記した文章です。

彼女は目覚めても視力減じ、食欲起こらず、脈拍呼吸も退勢を示すのみであった。しかし意識は飽くまでも狂わず、見舞いに來る人々に対する思い遣いと讚美歌を求める心は変わることはなかった。彼女を見守る両親をはじめ、周囲の人々の心は暗くあっても彼女のみは心明るく天国を夢見つつあるかと思われる瞬間に、父なる神の貴き御召しは下って、彼女は終に最後の可憐なる呼吸を愛する人々と大自然の前に遣わして復活のイエスの御懷に移り行った！

宗次郎にとって何よりも幸いだったことは、愛子が信仰をもって「イエスの御懷に移り行った」ことです。父の信仰のゆえの迫害だったのに、父を恨むこともなく、最後まで「讚美歌を歌うのをやめないで下さい」と求め続ける人でした。

この経験は宗次郎にとっては大変な経験でしたが、実は花巻の人々にとっても大きな経験となりました。なぜならば、この愛子の死をもって花巻の人々の宗次郎に対する迫害が止んだからです。それ以後の宗次郎は花巻の人々から尊敬される人になっていきます。

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」 マタイの福音書 16章 24節

齋藤宗次郎の信仰者としての生き様は今も、宮沢賢治の作品の中に、花巻の町と人々の心に、そして私たちの心の中にも刻印され続けています。



SYK便り



セミナー「神のご計画」を開催！

9月24日に、オリジナル手引をより良く使っていただくためのセミナーを開きました。3連休の最終日にもかかわらず、40名以上の方々が参加してくださいました。皆さん、用意されたガイドブック「神のご計画」を事前に読んで、備えてこられました。

2016年に出版したオリジナル手引「救いの基礎」は、様々なところで伝道のために用いられ、救われる方々も起こされています。しかし、キリスト教の救いについて、非常にコンパクトにまとめたため、取り扱うことが出来ないことがらも多くありました。また、聖書には、全体を貫く一つのテーマがあります。それは、「愛の神が、世界を造り、贖い、完成する」という「神のご計画」です。このテーマを念頭に置いて、各書を学んでいくときに、それぞれの箇所的位置付けと意味が理解しやすくなります。

この「神のご計画」について、島先克臣氏による講演、小グループに分かれてのディスカッション（SYKらしい！）、グループごとに出された質問とそれに対する応答、という形で学びました（次のページに皆さんの感想を掲載しました。）このような視点に接するのが初めての方々からは、「少し混乱した」という声もありました。しかし、今回の学びの内容は、ケープタウン決意表明や沖縄宣言など、世界と日本の福音派教会のリーダーたちが打ち出している救いの理解を、わかり易く提示したものです。「救いの基礎」だけでなく、オリジナル手引「使徒の働き - 神の国の広がり - 」や「ローマ人への手紙 - 信仰による世界の相続人として - 」を使いながら、聖書そのものの中から学び取っていきたいと思います。

会計係より

上半期に献金 1,840,768 円（含：出版指定 281,000 円）をいただきました。今年度の出版指定献金目標 80 万円の達成率は 35%です。お陰様で 9 月に新「ローマ人への手紙」を出版できました。感謝します！

新しい手引

「ヨブ記(抜粋) 伝道者の書 -苦しみの日に-」

来春3月出版予定！ 出版のために30万円必要です。
新し引出版実現のため、皆様のエールをお願いします！

* Facebook も始めました。HP ともどもよろしく！

「神のご計画」セミナーの感想（アンケートより）

目が開かれた思いがしました。キリスト者として生きること。キリスト者の使命の広さ、深さを教えられました。（資料を）繰り返し読んで学んでいきたいと願っています。（60代、女性）

この世界の終末と、クリスチャンの仕事の結末がどうなるのか、疑問が私なりに解消しました！参加して良かったです！（60代女性）

とても刺激的だった！（70代、男性）

大学時代 KGK で参加した、韓国 IVF のリーダーズキャンプで語られていた「全被造物の和解のメッセージ」を思い出しました。感動して聞いた、あのメッセージはこの視点に基づくものであったと知りました！

「神のご計画」ガイドブックは手引「救いの基礎」を深め、さらに今という視点が加えられたように感じました。すごくよくまとめられたガイドブックだと感じています。（20代、女性）

創造時のとても良い姿に、神様自身が回復し完成しようとしてくださる「神の大計画」、その根底に神の愛が常にあり、私は、その歴史の上に存在し、私なりの使命を果たす。そして最終的に、創造時と同じように全てが良いものでおおわれる神の国がこの地に実現されると知る時、私は、この地にも希望を持ちます。

私は、最後にはこの地が破壊され、天に神の国が出来るように思っていました。この地という…この地を大切に、この地をより愛していかなくてはという思いが大きくなっています。（70代、女性）

神の国のため、この世界のため、自分の出来ることを始めたいと思いました。（60代、男性）

地上で私がかかわるすべてが新天新地でも記憶として残り、その関係性を楽しむことが出来ると思うとうれしい。（50代、女性）

事務所から

クリスマスおめでとうございます。今年は災害が続いた年でした。被造物のうめき声が大きくなっているように思えるなか、この地が回復される日に向けて生活のあり方を見直しています。rf

◆◆ 「聖書を読む会」の働きは、皆さまのお祈りと献金によって支えられています ◆◆